

主 論 文 要 旨

No.1

報告番号	甲 乙 第	号	氏 名	小林 茂
主 論 文 題 名： Local Government Initiated Cross-Industry Innovation				
(内容の要旨) 21 世紀のイノベーションにおいて重要なのは、地方自治体が始める異業種イノベーションである。適切なテーマのもとに地場産業と情報産業から人々を集め、人々を観察してコンセプトをつくり、デジタルファブリケーションを活用してコンセプトプロトタイプをつくり、それをを用いて顧客を想定すると共に製造可能な量産型のデザインを行い、資金調達とプロモーションにクラウドファンディングを用いて顧客に届けることによってイノベーションが創出される。この取り組みを継続することにより、地域の中に自らイノベーションの創出に取り組んだ経験を持つ人々であるイノベーターが増え、そうした取り組みを地域において支援する基盤ができ、地域の中で生態系が構築されることでその特徴を活かした自律的で持続的な社会が創生される。これを統合された考え方としてデザインし、実施したのが「岐阜イノベーションプロジェクト」である。岐阜県大垣市において 2013 年度に開催した第 1 回には、株式会社パソナテックや有限会社大橋量器、サンメッセ株式会社といった地場産業と情報産業の 15 社から 26 名のプロジェクトマネジャーやエンジニア、デザイナーといった人々が参加して 5 つのチームを編成した。その人々は、共に顧客を観察してコンセプトをつくり、デジタルファブリケーションを用いてコンセプトプロトタイプをつくった。その中の 1 つ、光による演出で日本酒を飲む経験を豊かにするという新しい価値を提案する榧「光榧」をつくったチームは、コンセプトプロトタイプを様々な展示会に展示することで顧客を想定すると共に量産型をデザインし、クラウドファンディングを活用して資金調達とプロモーションを行って実際に顧客に届けることに挑戦していった。また、2014 年度に開催した第 2 回には、同じく地場産業と情報産業の 19 社から 25 名の多様なスキルや視点、経験を持つ人々が集まり、同様のプロセスを経て積木の豊かな触感とタブレットのアプリケーションを組み合わせた電子玩具「ことばつみき」と光による演出で生活に彩りを与える家具「イロドリスタンド」とう 2 つのコンセプトプロトタイプが生まれた。以上により、岐阜イノベーションプロジェクトという考え方の有効性が証明された。				